



土地利用型作物選択の学生

収益性の高い 水田農業経営を目指す



露地野菜選択の学生

連載

農を学ぶ

栃木県農業大学校③



農業経営学科

農業経営学科では、水田を利用した土地利用型作物や露地野菜の栽培・経営技術について学び、収益性の高い水田農業経営を目指している

す。

今年度は1年生21名、2年生21名の合計42名の学生が学んでいます。

土地利用型作物は、水稲・麦・大豆・そばなどを水田200アール、畑30アールで栽培しています。大型トラ

クターによる耕耘・代かきや、田植機、コンバイン作業も学生が自ら操作し、実践に即した技術を学習しています。生産されたお米は、学内の行事で使用したり、農大祭で販売しており、地域の方々に大変喜ばれています。

野菜は、露地ほ場やパイプハウスなど35アール程の畑に、なす、きゅうり、じゃがいも、ねぎ、アスパラガス、アーティチョークなど多くの

品目を栽培しています。それぞれ2〜3種類の品種を取り入れ、品種特性を確認したり、消費者ニーズの把握に努めたりしています。

2年生はあつという間に学生生活の半分以上が過ぎてしまいました。残りの期間も自主的に勉学に励み、将来、本県の農業・農村の発展に貢献できるよう努力していきたいと思

います。
(農業経営学科・廣田 将也)